

OCHA - 00308

書名

お茶の水女子大学附属図書館
月報 20

1 冊

所蔵者

お茶の水女子大学附属図書館

(備考)

請求記号

撮影

撮影年月

令和6年8月

お茶の水女子大学附属図書館

ヨルダーン作 仲良し



私が学生であつたら

野口 明

図書館から新入生に対して何か書けとの註文である。二度草稿を改めて見たか御説教めいて面白くないので破棄してしまつた。案外六ヶしい課題である。そこで趣向を変えてもし私が学生だつたらどんなことにならうかと云う構想で出直すことにしよう。

先づ私も入学少々真先に図書館に入る一人であらう。入つて壁間を飾る歴代校長の油絵を見て昔の教育家の堂々たる風貌にも此の学校の辿つて来た歴史がしのばれるように感ずると共にその初代からの順序と姓名とついでに画家の名を知りたく思う。

開覽室を見渡すと案外狭いのに不審を抱く。然し何となく親しみ易い空

気も感じ、これから度々御厄介になることに定めてしまふ。書棚を見ると辞書類が並んで居る。自由に出来るのはいいが何か足りないものがあるような気もする。然し書庫にはまだまだあるにちがいないと一人定めをする。

目録函を点検して見る。真先に「一番好きな美術の場所を見るにちがいない。少々物足りない気がするが、藝術大学ではないから贅沢云う方が無理だと簡単に諦める寛大さを持つてゐる。次に文学、哲学、歴史、地理、傳記、随筆などのところをざつと見る。文学ものは相当豊富であるから大に安心する。哲学ももの新しいところは淋しいが学校では古いところが備えてあればよいとして一心納得する。傳記や隨筆は乏しければ十分採りめると喜ぶ。

新刊書の棚をのぞいて見ると、新聞広告で見て一寸読んで見たいと思つたものが散見されて急に読しくなる。こう云うものも出たかと初めて実物にお目にかかるものもあるので何時かは之も借りて見ようと計劃に入れておく。

雑誌は何が来て居るか。種類はあまり豊富でないらしいのが一寸淋しい。それに他人に白願されて仲々借りる幸福に恵まれぬかもしれない心配になる。そのうちに館員の誰かに聞いて借りる榮耀を貰おうと云う考がひらめく。

さて授業が始まると今迄の学校とちがつて授業が少々手馴い。復習にも豫習にも時間がかかる。授業のない時間に図書館に入つて見ても呑気に雑讀する心の餘裕も乏しく靴からノートや語学のテキストを出して先づその整理や豫習から片づけねば気が済まなくなる。午後劇に暇な日には今日ことはかねて目星しをつけおいた好きな本を借りる。つい面白くなつて讀み耽る。いい気持になつて館を出ながら此の次は何時来ようか、何を讀もうかなどと考へる。

150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 17 37

3 4 5 6 7 8 9 350 1 2 3 4 5 6 7 8 9 360 1 2 3 4 5 6 7 8 9 37



の様子をそれとなく注意して見ると、なるほど小説類はよく借りる人も見るが固いものは自分と似たり寄つたりと思われ。上級生になつて論文やリポートを書かねばならない時には或はもつと御厄介に存るのかしらんと想像して見るが、却つてどうも本は先生の研究室の方に多いように思う。目録で見当をつけた本はたまには期待にピタリと答えてくれるが多くのピンポイントが外れ勝ちである。先生が図書館の人に相談するのはいいことと判つているが面倒臭くもあり肩かしくもあつて仲々出来ない。
だんだんと専門の道に入りかけてくると、必要な本は無理算費をしても買いたくなる。自分のものとなるや何時でも読めると云う気があるので案外讀まないが買つた時の気持は素晴らしい。結局図書館の本は参考的に散見するもの、教養娯楽のもの、新刊書に頼られて新しいセンスを養うものと勝手に定めてしまふ。新渡辺稲造の如きは学生時代に学校の図書と和書洋書片端から讀破したと云われている。明治初年の札幌農学校の図書がどれだけあつたか知れないがそれにしては驚異的な讀書力と驚く。我々は到底足許にも及ばないと嘆息を發する。或人は大学では教室よりも図書館で勉強したなどと天才ぶつたことを云うが、私はそうした奇道に不安を覚える。正規の授業を主に、図書館を従に此の平凡の道を行くのにむしろ自信と安心を感ずる。
図書館は楽しいところであつたが自分を反省させるところでもあつた。他の人達が六ヶし本を讀んでいられるのを見ると刺激を受ける。用がなくとも入るだけでもよい。然しもう少し静寂にしてくれたらと思つたことも時がある。然し何と云つても図書館はなつかしいところである。親んだいづくかの本の面影も永く印象づけられるであらう。図書館の一隅に居る自分の姿はいつまでも長く私の大学生生活の想出の中に残るであらう。

(本学々々長)

能助教授からの通信

途中無事で二月十六日 ANN ARBOR に到着致しました。寒さはかなり厳しいですが天気が良く乾燥した空気のせいかわかればほど寒くは感じません。目下新しい環境に順應するために一生懸命に努力しております。何もかも違つていますので知識としては知つていてもマゴつくこと許りです。 学内の皆様によろしく。

二月廿二日 Toshio Noh
Center for Japanese Studies
Univ. of Michigan, Ann Arbor
Michigan.

衝突する宇宙

ウエリコフスキー著
鈴木敬信訳 (H30 214)

本著はロシア生まれのユダヤ人学者が展開した異色ある宇宙論書である。そのあらましはこうである。
百約聖書に描かれている西紀前十五世紀および西紀前八世紀におこつた世界的大災変は前者は木星から生れたばかりの大彗星が地球に接近しておこつたもの、後者はこの大彗星によつて軌道を乱されて地球に接近した火星がこつたもので、この大彗星はこれからの變動に伴つて軌道がまるくなり、地球と木星との間にはいりこんでいまの金星になつたのだというのである。そして著者はこれを立証するものとして六百に近い古代神話、伝説、口碑、古記録に関する文献をあげ、いたるところで現代天文学を一つ又一つ反駁している。
著者は二ユートンやダーウィンが気にくわない。こんな代物を後世大争にしている科学者という人間は著者がみるとおおよそ縁遠い存在である。宇宙の真理はこんなものだけでわかるとはわかない。本書のどの隅々にもこういつた一流の見解が色濃くにじみでている。そして好奇と宣伝に浮き身をやつすアメリカの讀書界はこれにとびついて半半の同ノン・フィクション部門のベスト・セラーズの第一位を占めた。またこの片棒をかついだ天文学者の群職問題までも起したらしい問題の書である。この書によつて科学はさびしく問われている。民衆のための科学はなにを、どのようにしてなすべきか反省させられるであらう。

寡婦マルタ

オルゼシユコ著
清見陸郎訳 (C40 242)

ポーランドの小貴族の平和な家庭に育つた美しいマルタは、彼女を心から愛した少壮官吏の妻となつて幸福な結婚生活四年のうちに突然夫に死なれ、幼い娘をかかえて路頭に迷つた身となつた。マルタは当時の上流階級の婦人らしく一通りの教養を身につけていたが、それはどれも職業とするに足るだけの系統的で完全な知識でも技能でもなかつた。職を求めぬいたあけく縁縫工として辛うじて母子のどん底生活をささえていたが、娘が病むようになつて万策つき、通りにはぬすみーどろぼう、どろぼうと追いかける群衆に窮して、策命馬車に突進して死を遂げぬ。
この痛ましい女の生涯。ただ夫に頼る妻としての過去の女のたしなみは、いざ独立して生計を立てようとするときには何の役に立たない。女には職はたやすくあつていない。特別すぐれた技能をもたぬ女が生活を背負うときは、あらゆる限りの努力のうちに、じじきか、ぬすみか、賣春か、または死かの窮地に追いこまれる。これは十九世紀末のポーランドの女の実態を、義憤をもつてえがいたポーランド生れの女流作家の作品(一八七五年)であるが、五十年後の今日、日本の社会でまざまざとみる姿であらう。

マス・コミュニケーション

井口一郎著 (A24 70)

マス・コミュニケーションの研究が現在もつとも大規模に、また組織的に行われているのは

本をよむ少年

(伝 フォッパ作)

いうまでもなくアメリカである。わが国ではい
わゆる「新開学」という名のもとにいくらかの
研究があるけれども、真に科学的な立場からマ
スコミをとりあげたものはまだ存在しなかつた。
その意味でこの著書は高く評価されてよいだろう。
これは著者独自の研究というよりは、アメリ
カにちけるマス・コミ研究の紹介が中心となつ
ている。とくにラザラスエフエルド、ラスウエ
ルモット、ケイシー、スミスなどが中心的にと
りあげられている。この紹介でもわかるように
アメリカにちけるマス・コミ研究はいちじう
しく社会心理学的であり、長所も短所もそこに
帰するようである。その結果マス・コミ自体の
分析は行きどいていながら、現代社会をどのよ
うに切りむすんでいくかについては、向壁が残
されていくようである。しかしとにかく、マス
・コミ関係者はもちろん、それに関心をもつす
べての人々にとつて見逃すことのできない有益
な著書であらう。

哲學入門

アララン著
吉田 秀和訳 (13542)

アラランの著書は極めて多いが、その哲学思想
が最も集中的に盛り込まれているのはアララン、デ
カルト、ヘーゲル、コントなどについて先察を
集めた『イデー』であろう。これが本書『哲学
入門』である。これらの哲学者についての個々
の考察を集めて『哲学入門』と題することは無理
であらうが、これを『哲学入門』と呼んでいる
のはアララン自身であり、そしてまさしくこの書
に著者の目的もあれば、本書のすぐれた価値も
ある。「この著作を再刊するに当つて私は学生
に哲学の味を与えられるものは何一つ落さぬよ
うにしよう」という決意で、………今迄に

も幾度か『哲学概論』を著こうと念願してい
たのだが、遂にそれを書き上げることにした。
この本がつまりそれである」とアラランは「はし
がき」に書いている。アララン、デカルト、ヘ
ーゲル、コントなどを扱いつながら、アラランはこ
れらの思想家を哲学的な通念から解放して、
われわれと異ならない一人の人間、血の通つた人
間、そして人生の諸問題の前に精神の勇氣を失
わなかつた教訓的人間として描き出す。それは
同時に哲学のすべての問題の核心に読者を導き
いれることである。哲学とは既にでき上つた灰
色の体系ではなく、生きた精神の発したる行状
である以上、これらの教訓的人間との対話ほど
われわれに哲学の何たるかを知らしめよう。容
易な読物ではないが、この困難さと取組むこと
自体が思想を鍛える。その意味の「入門」であ
る。

ケール先生とともに

久保 勉著 (D14 484)

本書において著者が第一に目的としたところ
は、東京大学においては多量哲学者として多
数学生の敬仰の的となり、晩年にはその隨筆
（小品集三巻）によつて広くわが教養ある讀者
の層に深き感銘を与えたケール博士の特得
無二の性格を、著者が十餘年に亘り起居を共に
して朝夕見聞した博士の日常の言動に徹して出
来るだけ忠実に描写し、その人格を彷彿せしめ
ることであった。著者の今一つの念願は、一般
に西歐人と東洋人と、特に日本人との精神的交通
理解乃至融合が一体どの程度まで可能であるか
という重大な問題の解決に多少とも寄與したい
ということであつた。
（久保勉「出版ニュース」より）

ピカソ藝術の五十年

アルフレッド・H・パグ著
植村 奮平訳 (L30 258)

ピカソについての著書は非常に多いが、本書
は丹念に材料を集め、しかも作品の発展のあと
を系統的に解説した点ですぐれている。ピカソ
自身は、芸術の発展という言い方を嫌つてい
るようだが、客観的にみるとピカソ芸術の五十年
にはその言葉が適当に思える動きがみえる。
彼の芸術はいつもダイナミックに羽ばたきな
う前進しているが、ときどき、とりわけ自立
つた大きな羽ばたきをする。それがピカソ芸術
の各エポックの形式となつて現れるが、その
たび毎にその以前に行われた、一見不羈、奔放
、自由自在に思われる発見や試みが無駄なく結
合されてゆく。これからピカソがまたどう変
か、それはもちろん豫測を許さない。だがこの書
を讀むと、どのように変ろうとも、ピカソ芸術
には実に鮮明な一本の筋金を通つていることが
よくわかり、それがこの書の最大の価値であら
う。本書は、一九三九年にニューヨークの近代
美術館がシカゴの美術館と協力して広範の展
覧会を開いたときの目録から出発したという。
スペイン時代から始まり、その五十年の半生を
各々の時代を代表する作品を挿入して詳細に
論じている。巻末には一九二三年、三五年のピ
カソの声明を収めている。

なおピカソの生立ちや逸話をその画風ととも
に描いた近刊書に、福島繁太郎著「ピカソ」
（L307）がある。七十頁の文庫本であるが、熱
な気持ちで楽しく讀めるので一讀をすすめたい。
最近購入したピカソ関係のものとしては、
サバルテ著「親友ピカソ」(L324)や、讀賣新聞
社発行「パブロ・ピカソ」(画集)(L326)も
どがある。

われらの太陽

D.H.ソレル著
鈴木敬信訳 (H11 190)

われわれが太陽から光や熱を受けて生活して
いることは誰でも知つてゐる。しかし太陽とわ
れわれとの関係は單にそのようなものではない。
太陽はわれわれにもつと深い影響を与え、経
済生活にまで直接影響を及ぼしている。最も緑
の海のような国防問題にまで関連している。この
ことはアメリカに於いて、第二次世界大戦に際
して太陽研究が軍の管理下におかれて、研究発表
は制限され、認可を要したことから窺われよう。
本書は第二次大戦中に発達した研究をも含み
太陽に関する最新の知識が専門的難澁さに陥ら
ぬよう十分に注意しつつ、親切に説かれたもの
である。数年あるいは十数年前の太陽の知識
しか持ち合わせぬ人がこの本を讀んだら、恐ら
くその目ざとい発達に、また想像以上に深い太
陽とわれわれとの関係に驚くであらう。コロナ
は100,000,000の温度を持ち、ある種の紅
炎を作るがそれは見かけ上何もない空間から太陽
面に注ぎこんでくるという。次から次へと出て
くる太陽上の魔術のような不思議の出来事が生
き生きと叙述されている。
現代と将来とを問わず、人類の生活を向上す
るには、太陽の深い研究が基礎となるべきこ
とをこの書物は教える。その意味で、この書は
科学者のみならず、人類の文化生活に深い関心
を持つ人が一讀すべきものであらう。

いったいどうしてか、学問を業とし、勉強
をしてゆこうとする人にとつては、どんな理由
があろうとも原典によつて研さんを積むといふ
ことが如何に大切であるかを教えられる。氏に
とつては倉田百三の「愛と認識の出發」であら
うと、阿部次郎の「合本三太郎日記」であら
うと、眼中外のものであつたことは、右の下の文
をよめばうなずけることである。
次に氏のいう、湯茶茶の勉強法というも
のがどういふものであるか、虚栄心のままに
としてのべられる讀書心理の告白などは、私共
の心に迫つてくるものがある。

文學入門

桑原武雄 (C106)

最近いつても初版が昭和二十五年にでたも
のだが、余りにも有名で大方の人から買はれたも
のであらう。巻末の、世界近代小説五十選は、
自問自答してみると面白い。

讀書のすゝめ

龜井勝一郎他執筆 (A237)

安倍能成、小泉信三、阿部次郎、小林秀雄
などが執筆している。「讀書論」「私の讀書通
歴」の二部からなつてゐる。
三水清氏は閑暇を生むことが讀書の習慣をつ
けることになるとのべている。又新刊書と古典
書の価値をけつり区別している。
次に目についた原文を引用してみよう。
「正しく讀もうといふには先ずその本を自分で
所有するようにならなければならぬ。借りた本や
図書館の本からいとは何ぞ根本的なものを讀ぶ
ことが出来ぬ。高價な大部の全集とか、辞典の
ようなものは図書館によるのほかにないにしても、
図書館は普通はただ一寸見たいもの、その時の
調べ物にだけ必要なもの、多岐の専門文献のた
めに利用されるのであつて、一般的教養に缺く

私の讀書と人生

清水幾太郎 (I483)

社会学者である著者の少年時代から現在に至
る自叙傳的な讀書履歴である。本書をよんで私
共に最も放されれるものは、誰々の著書とか、
何々という書物とかいうものではない。氏が社
会学の文献をよくに當つて、何冊かのノートに
書きこんで、これに「社会学雑誌」という標題
をつけ、手当り次第に社会学の著作を採録して

また新しい讀書人を迎える図書館として、何
をよむべきか、如何によむべきかという問題が
事新しく考えさせられる時になつた。
この問題は本目録でも今までに学長始め取上
げられていふことであり、又先生方の学生時代
に愛讀された書物を公表して頂いて讀書の羅針
盤としたこともあつた。（序二号） 要は讀書
すること、讀書それ自身によつて学ぶより外は
ないやうである。しかし閑覽室に入つて、ケ
ールに並ぶ目録カードをみる時、何をよむべきか
如何によむべきか、は誰でもが一応は体験する
氣持であらうから當館のコレクションから讀書
の指針となる書物を御紹介してみようと思ふ。

世界文學をどう讀むか

ヘルマン・ハッセ、高橋健二訳 (C406)

すぐれた作家であると同時に、すぐれた讀書
家であるハッセの *Didionline der Welt*
Literatur (1929) を訳したもので、讀書
物の魅力が、わが發讀書、世界文學書目表の
の項目にわかれてゐる。書目表のなかでは日
本文学には全くふれていないが、發讀書のなか
では短い隨筆中、日本のことにもふれてゐるの
がうれしい。

	日本名著全集刊行会編	
㊦ 芭蕉全集	〃	M 40・327・3
㊦ 近松名作集 上下	〃	M 40・327・4・5
㊦ 浄瑠璃名作集 上下	〃	M 40・327・6・7
㊦ 歌舞伎脚本集	〃	M 40・327・8
㊦ 浮世草子集	〃	M 40・327・9
㊦ 黄表紙 25種	〃	M 40・327・11
㊦ 洒落本集	〃	M 40・327・12
㊦ 讀本集	〃	M 40・327・13
㊦ 滑稽本集	〃	M 40・327・14
㊦ 人情本集	〃	M 40・327・15
㊦ 怪談名作集	〃	M 40・327・10
㊦ 南總里見八犬伝 上中下	〃	M 40・327・16・18
㊦ 狂文和歌集	〃	M 40・327・19
㊦ 徳川田舎源氏 上下	〃	M 40・327・20・21
㊦ 膝栗毛 其他	〃	M 40・327・22・23
㊦ 和文和歌集	〃	M 40・327・25
㊦ 川柳雑俳集	〃	M 40・327・26
㊦ 俳文俳句集	〃	M 40・327・27
㊦ 歌謡音曲集	〃	M 40・327・28
㊦ 謡曲350番集	〃	M 40・327・29
㊦ 風俗図繪集	〃	M 40・327・30
谷崎潤一郎隨筆選集 第3巻		M 50・107・3
天理大学図書館蔵書目録和漢書の部		M 60・134
図書寮典籍解題歴史篇	宮内省書院部	M 60・135・1-2
図書寮典籍解題文学篇		M 60・136・1-2

雑誌書架案内

新著の雑誌類は図書館事務室入口際の書架に自由閲覧式に展示してあります。
(館内閲覧を厳守の上、十分御利用下さい)

主要雑誌

自然。科学。科学朝日。思想。俳句研究。
短歌研究。國語と國文学。解釋と鑑賞。
音楽の友。みづゑ。リーダーズダイジェスト(和・洋)。
世界。中央公論。新潮。改造。婦人公論。
文芸春秋。婦人画報。Life。Newsweek。
The current of the world。

こののできぬもの、専門書にしても基礎的なものはなるべく自分で所有するようにするが、好い書物の蒐集方法をのべている所があるが、たしかに書物を買うということも一つの習慣のようであるから、買いなさい、買いなさいと人にすすめられることは後で感謝することが多いように思う。
小林秀雄氏は次のようなことを書いておられる。
「僕は高等学校時代、妙な讀書法を実行していた。学校の住み通りに電車の中で讀む本、教室でひそかに讀む本、家でよむ本という具合に區別して、いつでも数種の本を平行してよんでいた」

教養文献解説

木村健康編 (M60 103)

昭和十八年の発行でいささか時代の古さがうらまれるが、教養の目的の為に必讀と思われろ文献が、思想、哲学、宗教、科学、社会、歴史、傳記、文学等の細目にわたつて詳述されている。日本文献だけでなく外國文献ものつて、基礎的なものを秩序だつてよもうとする時、又各人の讀書を秩序だつてよもうとする時のよい指針になる書である。
以上のような書物は、一度はかならずよむべきではないだろうか。(一度ということはいふ本をよむことで余り時間をかけたくないという意味である)しかし一年でも二年でもはやくよむということは非常にその價値が大いように考ふる。

林 太郎教授

故父君を記念されて

福音書異同一覽	塚本 彪二 著
世界人名辞典 西洋篇	大 類 伸 一 著
魔法から科学へ	チャールズ・シンガー 著 山田 坂久 訳
電子顕微鏡	笹 川 久 吾 著
ブルームス——生涯と作品——	カール・カウリンガー 著 山 根 銀 二 訳

上記の図書を御寄贈下さいましたことを御礼申し上げます。

編集記

ききたまへ、遠くから僕の……
君はなるだろうか。

耳よりも心を傾けることが大事なのだ。
そうすれば、君を眺め見張っている、ぼくのところまで来るのに橋や道を、君自身の中に見つけ出すだろう。

大面洋の広さも何のその。

ぼく二人の間にある、野も森も山も

いつかは、一つづつ消えて行くだろう

君がこちらへ眼を向けさへすれば。

(シユペルヴァイエル詩集より)

XX XX XX

入学、進学のよろこびに輝く学生諸君に、書庫の書物に代つてこの詩を献呈します。

昭和二十七年四月

お茶の水女子大学図書館
編集

日本資本主義発達史年表
公認会計士特別試験講習速記録

岡崎次郎 外編

E 30・406
E 40・91

F. 数 學.

高等数学通論 II
近代確率論
微積分学の基礎
自然教論
体論

辻 正次・田中明雄 共著
國沢清典著
小松勇作著
河田敬義・竹内外史 共著
稲葉栄次著

F 30・297・2
F 30・309
F 30・311
F 30・312
F 30・313

G. 動 物

⑨ 実験形態学 7輯
⑩ 近代進化思想史
結核集団検診の実際
生命について
人体と放射線
⑪ 細菌学実習提要
⑫ 家庭衛生学
⑬ 学校精神衛生
⑭ 健康教育の解説

八杉龍一著
關部英雄・田中正一郎編
澤淳久敬著
江藤秀雄著
伝染病研究所学友会編
瀬木三雄著
高木四郎著
岩原 拓著

G 10・241
G 10・243
G 40・338
G 40・339・2
G 40・340
G 40・341
G 41・240
G 41・241
G 41・242

H. 物 理. 化 學.

⑮ 素粒子論の研究
⑯ 力学概論
⑰ 流体力学の諸問題 1
初等力学
⑱ 醗酵学研究法第八卷
ヴィニル系合成樹脂
⑲ 理科年表
科学の成立と発展
物質とエネルギー
宇宙と地球
科学 技術生活
実験科学方法論
古代中世科学文化史 1

素粒子論研究会
寺澤寛一著
友近 晋編
坂井卓三著
河出書房発行
神谷卓郎・古谷正之著
東京天文台編
菅井準一・杉田元宣共著
林太郎・中村誠太郎外著
島山久尚外著
板山平一著
アンリ・ルシャトリエ著 稲村耕雄外訳
G・サートン著 平田 寛訳

H 10・519・1-3
H 10・537
H 10・541
H 10・542
H 22・169
H 23・117
H 24・60・4
H 30・206・1
H 30・206・2
H 30・206・3
H 30・207
H 30・208
H 30・209

J. 家 事.

主婦之友独習書全集
⑳ 新しい合成繊維
㉑ 繊維工業
㉒ 繊維工業便覧
㉓ 実用染色法

祖父江 寛著
中原虎男外編
繊維学会編
長津勝治著

J 10・100・1-9
J 51・195-6
J 51・197
J 51・198
J 52・52

L. 美 術. 諸 藝. 体 育.

美術入門
① バッハ集 4
② 山田耕作独唱曲集 1
チヤイコフスキーの芸術
③ 体育を通じての児童のガイダンス
④ 学習指導要領
⑤ 体育科選択教材の解説
⑥ 図解バスケットボール
⑦ バレエ教科本
⑧ バレエ

森口多里著
井口基成外編
園部四郎著
J・A・ラ・ザール著
文部省編
ホブソン著
ア・ノルド・ハスケル 著

L 10・186
L 40・459
L 40・460
L 40・481
L 80・126
L 80・127
L 82・191
L 82・152
L 84・48
L 84・49

M. 雑 書.

確率と統計
統計解析の理論
⑨ 推測統計法
⑩ サンプル調査はどう行うか
⑪ 推計学による壽命実験と推定法
⑫ 時事年鑑 昭和27年
⑬ 世界資源年鑑
⑭ 教育統計講習会講義要綱
NHKラジオ年鑑 — 1951 —
法学辞典
⑮ 全国方言辞典
愛欲 — 岩波文庫 —
魏志倭人伝 外
嘘 上巻
政治経済論
エチカ — 倫理学 — 上下
野外にて
童話集 銀河 鉄道の夜
冷突
経済学原理への評解 上
旅は驢馬をつれて 他一篇
タウリス島のイフィゲーニエ
自然の法典
ベルツの日記 第一部上
マルクスエンゲルス選集補遺 3
星と宇宙 — 岩波字真文庫 —
佛像 — 岩波字真文庫 —
金印の出た土地 — 岩波字真文庫 —
石炭 — 岩波字真文庫 —
⑯ 室町時代小歌集
南方歌補全集 第2巻
鷗外全集 第6巻
福沢諭吉選集 第6巻
⑰ 西鶴名作集上下

河田達夫著
成実清松 外著
寺田一彦著
林 知巳夫著
田口玄一著
— 1952年版 —
文部省編
末川 博編
東條 操編
武者小路実篤作
和田 清・石原道博編
ブルジョワ作
ルソー著
スピノザ著
シエフリズ著
宮沢賢治作
永井荷風
ステイブリン著
ゲーテ作
モルリイ著
トク・ベルツ編
浅野建二校註
日本名著全集刊行会編

M 10・122
M 10・123
M 10・124
M 10・125
M 10・126
M 11・55・4
M 11・79
M 11・80
M 11・81
M 30・344
M 30・345
M 40・310・323
M 40・310・324
M 40・310・326 A
M 40・310・327
M 40・310・328 AB
M 40・310・329
M 40・310・322
M 40・310・325
M 40・310・330 A
M 40・310・331
M 40・310・332
M 40・310・333
M 40・310・334 A
M 40・315
M 40・316・36
M 40・316・42
M 40・316・46
M 40・316・49
M 40・321
M 40・323・2
M 40・324・6
M 40・325・6
M 40・327・1-2

㊦ 知能異常児	長野幸雄著	A 27・103
㊧ 親と教師への子どもの抗議	鈴木道太著	A 27・104
㊨ 親の知らない子供の生活	戸川行男 外著	A 27・105
㊩ 新入学児童	東京教育大学内児童研究会編	A 27・106・14
できない子供	〃	A 27・106・15
性教育	〃	A 27・106・17
精神薄弱児	〃	A 27・106・18
遊びの指導	〃	A 27・106・19
㊪ 全国学校名鑑	文化研究社編	A 28・138

B. 宗 教

宗教的人間	石津照聖著	B 10・76
神を求めよさうば生くべし	小山誠太郎訳	B 40・76
偉大なる生涯	フルトン・アワスラー著 飯島幡司訳	B 40・77
民間信仰	堀 一郎著	B 10・75

C. 文 学 語 学

㊫ 近代日本文学の思潮と流派 (上)	片岡良一編	C 10・131・3
英文学史	中川芳太郎著	C 10・132
日本古代文学史	西郷信綱著	C 10・133
抵抗する知性	小場瀬卓三著	C 10・134
中世小説	市古貞次著	C 20・459・7
㊬ 対訳源氏物語巻3	佐成謙太郎訳	C 20・484・3
明治文学作家誌	本間久雄著	C 20・494
㊭ 万葉集新説	美夫君志会編	C 21・456
白萩詩集	大木淳夫編	C 21・457・1
北原白萩選集 3	奥田 準編	C 21・457・3
為兼卿和歌抄	宮内庁書陵部編	C 21・458・1-2
㊮ 芭蕉講座 10冊	三省堂発行	C 21・459
三宅雪嶺集	改造社編	C 22・38・5
志賀直哉集	〃	C 22・38・25
新聞文学集	〃	C 22・38・51
小杉天外・山田美妙集	〃	C 22・38・53
巖谷小波・江見水蔭・石橋思案・菊池幽芳集	〃	C 22・38・54
新興藝術派文学集	改造社編	C 22・38・61
源氏物語 巻二	谷崎潤一郎訳	C 22・261・2
新・平家物語第三巻	吉川英治著	C 22・262・3
愛と死の芸術	河竹繁俊著	C 22・268
演劇の伝統 — 演劇講座二巻 —	〃	C 22・269・2
演劇の様式 — 演劇講座四巻 —	〃	C 22・269・4
シナリオ源氏物語	新藤兼人著	C 22・270
ヨーロッパ演劇巡礼	北村喜八著	C 22・271
聊斎志異 第五巻	柴田天馬訳	C 30・325・5
真夜中 第二部	尾坂徳司訳	C 30・338・2
㊯ 支那文学概観	茅 盾著	C 30・339
㊰ 唐代小説研究	長沢規矩也編著	C 30・339
㊱ 談芸録	劉 開榮著	C 30・340
	銭 鐘書著	C 30・341

㊲ 文選	蕭 統 撰	C 30・342
中国文学入門	劉 麟生著	C 30・343
嵐の中の木の葉	林 語堂著	C 30・344
荒野の狼	ヘルマン・ハッセ	C 40・153・7
サルトル全集 第二巻下	佐藤 朝・白井浩司訳	C 40・175・2B
知と愛	ヘルマン・ハッセ	C 40・217・4A・4B
シエイクスピア研究	日本演劇学会編	C 40・235
エピキユールの園	アナートル・フランス著	C 40・237
中世の英文学と英語	厨川文夫著	C 40・238
カーヴイルの奇蹟	ベティマー・テイン 著	C 40・239
男 — ロック・ウイリアム・サローヤン著	ウイリアム・サローヤン著	C 40・240
モスクワの青春	トリーフオリフ著	C 40・241
寡婦マルタ	オルゼシユコ著	C 40・242
㊳ 平安朝文法史	山田孝雄著	C 60・298
㊴ 現代口語の実相	湯沢幸吉郎著	C 60・299

D. 歴 史 地 理

第二次大戦回顧録・10	チャーチル著	D 10・156・10
世界女性史	玉城 肇著	D 10・186
西園寺公と政局 6巻	原田熊男述	D 11・933・11
太平洋戦争前史	香木得三著	D 11・939・3
㊵ 日本現代史 第一巻 明治維新	井上 清著	D 11・959
大正政治史 第二巻	信夫清三郎著	D 11・960
㊶ 日本歴史講座 第二巻 第三巻	河出書房発行	D 11・961・2-3
㊷ 清国行政法	臨時名簿旧慣調査会編	D 12・358・1-7
殿国革命	佐野 学著	D 12・360
㊸ 英国産業革命史	トニビー 著	D 13・134
ジイドの日記	塚谷晃弘 外訳	D 14・446・1-4
宮廷	新庄嘉章訳	D 14・479
㊹ 荊楚歳時記	小川金男著	D 20・131
㊺ 都市計画正續	守屋美津雄著	D 30・53・1・2
㊻ 世界地理大系 第四巻	武居善四郎著	D 30・51・4
㊼ 関東地方	河出書房	D 32・134・2
英國の風物	藤本治義著	D 35・154
モロッコ	篠田錦策著	D 35・155
大日本分縣地圖併地名總覽	山田吉彦著	D 36・214

E. 法 制 経 済

断たれたまぎな — 日英外交六十年 —	入江啓四郎著	E 10 160
㊽ 日本議和條約の研究	横田喜三郎著	E 10 162
國際連合	セーニヨボス著	E 10 163
フランス民主主義発達史	佐野 学著	E 10 165
共産主義戦争論	レーニン・スターリン著	E 10 164
中國論	グローチウス著	E 10 166
戦争と平和の法	グローチウス著	E 20 314 3
法における常識 — 岩波現代叢書 —	ヴァイノグラドフ著	E 20 370
㊾ 新しい源泉徴収	國稅局編	E 30 402

新着圖書リスト

下記リスト中 ○印のあるものは○内に示された各研究室或は各課に配備された図書であることを意味します。

本リストは逐次掲載されますから図書目録として御使用になれば便利です。

A 哲 學 教 育

西田幾太郎全集 別巻1 文化の没落と再建	シュワツェル著、石原兵永著	A 10・296
④ 諸民族における人間概念	津田右吉 外編	A 10・379
インド哲学思想第二巻	中村 元著	A 10・380
論語總説	藤塚 鄭著	A 12・401・2
哲学入門 上下	アラン著 吉田秀和訳	A 12・415
新しい道徳教育	岡郷 博編	A 13・54 1-2
新稿アユイ倫理学概説	永野芳夫著	A 14・340
④ 訓練原論	藤原助市著	A 14・341
④ 心理学史	ホワードワレン著、矢田部達郎著	A 14・342
④ 青年心理学	桂 広介著	A 16・290
異常心理学	南 博、井村恒郎、外著	A 16・291
新発達心理学	上武正二著	A 16・292
④ 心理学における力学説	ケエーラー著 相良守次訳	A 16・293
④ 比較学習心理学	武 政太郎著	A 16・294
愛憎	カール・メニンジャー著 草野栄三良訳	A 16・295
④ 青年心理学	望月 衛著	A 16・296
④ 教育心理学 上巻下巻	シヨルマン著 白根孝之訳	A 16・297
④ 性教育心理学	佐藤 正外著	A 16・298・1-2
④ 心理学的測定	印東太郎、牧田 稔、外著	A 16・299
④ 情緒の心理	フロイド・エル・ラウチ著 関 計次訳	A 16・300
幼児心理学	湯永重次著	A 16・301
④ 音響心理学	和田陽平著	A 16・302
④ 人格心理学	佐藤幸治著	A 16・303
④ 実験心理学提要 第一巻	高木貞三、城戸幡太郎監修	A 16・304
④ 芸術学	矢崎美盛著	A 16・305
④ 封建藩制	日本人文科学会編	A 17・70
④ 社会民主主義と共産主義の対決	カール・カウツキー著	A 18・213
日本労働組合運動史	末弘巖太郎著	A 18・214
史的唯物論 上巻	コンスタンチノーフ監修	A 18・215
第三ヒューマニズムと平和	務台理作著	A 18・216
平和国家への道	金川英人訳	A 19・67
米国教育使節団報告書	渡辺 彰訳	A 20・302
教育評價法	渡辺 彰訳	A 20・366
教育の理想	後藤岩男・長島貞夫共著	A 20・392
④ 日本の勤労教育の思想史	野田良之著	A 20・393
④ 大学に於ける一般教育	小林澄兄著	A 21・130
学習指導法	大学基準協会編	A 25・87
最近の視聴覚教育	青木誠四郎著	A 25・88
取扱いにくい子供の医学	波多野克治 外著	A 26・31
山びこ学校から何を学ぶか	ウリアム・ムンディ著 懸田克躬訳	A 27・101
	須藤克三編	A 27・102